

第3回総会で新コンセプト

「時が映える・・・木のいえ一番！」を披露



木のいえ一番振興協会は、6月2日午後1時、神泉風来ビル風来講堂（東京・渋谷区）において第3回総会を開催しました。出席者は、会員51名のほか、来賓として林野庁木材製品技術開発室（木材産業課）の香月英伸室長、中村誠住宅資材企画係長、横浜国立大学の矢田茂樹名誉教授の3名でした。ご多忙のなか、ご出席頂いた皆様に感謝申し上げます。



開会に当たり北出秀樹理事が開会の言葉を述べた後、挨拶にたった二木浩三会長は、「木のいえの市場拡大を川下から進める取り組みが不足している。今後は新コンセプトのもと、自然材を建物の内外装にふんだんに使い、年月とともに味わい深まる木のいえの暮らしの普及を目指す活動を広げたい」と第3期にかける決意を述べました。



また香月室長は、「林業の成長産業化のためには、木材の利用拡大が不可欠。委託事業で作成した手引きを活用して、川下の方から協会の活動を盛り上げて頂きたい。」と挨拶しました。

議事では、「平成27年度事業報告及び決算」、任期満了の「理事・監事の選任」、ログハウス市場の拡大のためのログハウス部会の設置などを含む「定款変更」が承認されたほか、「平成28年度事業計画及び変更予算」、「二木 浩三会長ほかの役員を選定」、「ログハウス部会 会長 中川 信治氏（夢木香）の選任」、「基金の募集」が理事会で決議されたことを報告しました。

議事終了後は、吉田忠利広報委員長が新コンセプト案「時が映える・・・木のいえ一番！」を披露したほか、池田均技術開発委員長が平成27年度に林野庁の委託事業で作成した「建築物における木材の現し使用の手引き」を紹介、さらに田鎖郁夫運営活性化担当理事が入会促進と協会活性化のため今秋、予定しているイベント企画案を披露しました。総会後は、同会場で懇親会が開催され、今後の木のいえの市場拡大などについて情報交換が行われました。協会として3年目に向け、委員会メンバーの充実などを図りながら、活動の活性化に向け取り組めますので、引き続きのご指導、ご協力をお願いいたします。

写真：(上から)
開会挨拶をする二木会長
開会を宣言する北出理事
来賓挨拶をする香月室長